# 東大阪大学 · 東大阪大学短期大学部

18歳人口減少に伴い、大学、短期大学への進学者数も減少、特に短期大学入学者数の減少が迫られている中、本学も学生募集は非常に苦戦した。特に近畿地区の受験生がやや減少傾向にあり、近畿に留まらず西日本の地域を重点に募集活動を実施した。

昨年度開設した介護福祉学科への留学生の受験希望が多く、国際交流センターとの協議の上、 学習意欲、出席管理、生活管理、支弁能力等について面接時に厳しく確認し、2年間の学生生活に励むことができる人材の確保に努めた。また、留学生が授業内容を理解できる必要があるため、基礎的な日本語能力を測定する「日本語能力試験」を受験時に課した結果、日本語での会話ができ、話す内容を理解できるレベルの学生を確保することができた。介護福祉学科では、課題であった日本人学生を確保するため、学科教員の模擬授業や積極的に高校訪問を実施し日本人学生の入学に努めた結果若干ではあるが増加した。今後、日本人学生確保についてさらに努力したい。

学園国際交流センターとの協働で、留学生の出席管理に努め、各学科教員と連携し留学生の生活管理を行った。さらに全体の把握を瞬時に行うことができるように出席管理をシステム化する必要があり 2019 年度より導入し、日々、確実に留学生だけでなく全学生の出席状況の把握に努めるようにすることとした。

アジアこども学科について、2021 年度入学生から「(仮称) 国際教養学科」に名称変更届の手続きをするため提出書類作成作業を始めた。同時に、文部科学省から認可を得ると、各高校へ名称変更の趣旨や新たなイメージでの学科としての趣旨を知らせる必要があるため、その広報活動の準備を行う対策チームを作り、新たな訪問高校の選定も始めている。

異文化交流室、産官学地域連携室では、様々な活動を企画、実施し、特に東大阪市と密着した活動の充実を目指してきた。引き続き、各学科の特色を生かした内容で地域貢献できる事業を企画し、東大阪市への地域貢献を目指す大学として広報活動につなげたい。

基盤教育研究センターにおいて、基礎学力向上から就職へ結ぶカリキュラムマップをつくり、継続して「ひがドリ(基礎学力テスト)」を実施してきた。「ひがドリ」の分析をもとに、就職対策講座の実施内容等を教員で検討し、本学の学生の実態に合った対策講座内容を検討した。さらに、次年度の運営方法や取り組みについて話し合い、継続して基礎学力に努めることとした。

以下、学科別、各部署別の事業報告を記載した。

# 【東大阪大学】

# [1] こども学部こども学科

#### 1. 初年次教育

平成30年4月14日~15日、こども学科新入生は「新入生宿泊研修」に参加した。こども学科では、第1日の午前中は、「夢をかなえるための最初のステップ」と題して、大学生活をいかに過ごすかをグループディスカッションし、夜に参加した学科の先輩が、ディスカッションの記録を見てアドバイスを行った。また各学生が履修科目確認の上、こども学科の学びについて各学科教員とともにワークを行った。

本年度より新たに、免許・資格必修科目「実習基礎セミナーI・II」を開講した。実習の基礎知識と心構えを学び、附属幼稚園での見学・プレ実習(保育・運動会・バザー)、「こども応援ひろばパートI」への参加など、1年次学生は、実践を通してこどもの現場で何が必要とされるのかを習得した。全学科教員による指導のもと、個々の学生の履修状況を把握し、補習を行うなどきめ細かに対応している。

実習基礎セミナー I 附属幼稚園見学



#### 2. 公立幼稚園 - 保育所採用試験対策講座

平成29年度より、1年次の希望者を対象に「公立 幼稚園・保育所採用試験対策講座を行っている。平成 30年度は1・2年次が受講。「数的推理」等、1年 次から時間をかけて習得していくことで、参加学生が 対応力・考察力をつけていく様が顕著に見られた。

#### 3. 実習報告会(直後指導)

平成29年度より、保育・施設・幼稚園実習の直後 指導を、実習の締めくくりとしてより充実させるべく、 実習報告会を行っている。平成30年度も学生はサンプ ルを参考に自分の実習をレジュメにまとめ、保育所と

実習基礎セミナー I こども応援ひろばパート 1



プレ実習(附属幼稚園運動会)



公立幼稚園保育所採用試験対策講座



実習報告会(保育実習 I )



## 4. こども研究センターとの連携

平成30年7月29日、本学こども研究センター主催の「こども応援ひろばパートI」が開催された。こども学科4年次の演習授業「子育て支援演習」では、学生が「こども応援ひろば」の企画・準備をして実践することで、親子の交流のあり方や子育て支援について学んだ。多くの子どもと保護者が参加し、学生には企画力・運営力を培うための貴重な体験となった。

こども応援ひろばパートI



準備の様子





#### 5. 卒業研究発表会

平成30年12月20日に、丹山先生のゼミ生による卒業演奏発表会「パーカッションアンサンブルコンサート」を開催し、平成31年2月5日には、卒業研究論文発表会を開催した。

学生は、それぞれがゼミで取り組んで来た研究の成果を発表し、今後も活かすことができる 経験とともに新たな課題を得た。

「パーカッションアンサンブルコンサート」



「卒業研究論文発表会」



# [2] こども学部アジアこども学科

## 1. 新入生宿泊研修

学科別研修では、「私の思う大学生活」を基本テーマとし、大学生としての思考の訓練や意見交換の方法を学んだ。また、具体的な目標や将来の夢などを、個別に筆記し、グループの代表がこれを口頭にて発表しあ



った。日本人学生、留学生のそれぞれの立場からの、自分以外の学生の考えを聞くことができ た。更に、履修指導など、学生生活の指導も行った。国際交流センター職員の協力で、留学か ら就職に至るまでの経験談の紹介もあった。留学生には身近でかつ模範的な経験談として、ま た日本人学生には、海外で働くことについての具体的な話を聞く大切な機会となった。



## 2. 学園祭

2018年10月21日(日)に行われた学園祭では、学 科模擬店として、9 号館1階ラウンジに てバザーを開催し、 教員及び学生から集 めた物品を販売した。 販売物品の内容は、



本、DVD、世界の絵ハガキ、しおり、雑貨(おもちゃ、 日用品、服飾品)など。客は、主に来学児童の保護者であ

った。参加学生が少なかったので、今後積極的な参加が望まれる。

#### 3. アジアこども学研修(フィリピン)

アジアこども学科2年生全員が参加する海外研修「アジアこども学研修」は本学科の必修 科目である。今年度は11月4日から10日までフィリピンのセブ島で行われた。日程は以下の 通りである。

- 11月4日 15:25 関空 フィリピン航空(PR409)
- 11月5日 現地大学との交流
- 11月6日 ショッピング
- 11月8日 マザーテレサ孤児院、ストリートチルドレン給食センター、墓地・山村の子ども たち支援活動
- 11月9日 ホボール島観光(アイランドホッピング)
- 11月10日 6:30 セブ空港 フィリピン空港 (PR410) 14:25 関空到着 なお、滞在期間中、毎日8:00 から12:30 まではマンツーマンの英語レッスンとなって いた。

本年度より、アジアこども学科必修科目およびこども学科単位認定の他、短期大学部でも私費参加の募集を行い、AS21名、CS4名、AC2名の計27名の参加があった。フィリピン到着後、セブ医科大学ESLセンターによるオリエンテーションを経て、1週間のスケジュール(午前:半畳分ほどの小部屋で、細かく設定されたレベルに応じて、フィリピン人の先生とマンツーマン英語レッスン。50分授



業で10分の休憩。これを毎日3コマ。午後:教育施設訪問、観光)を実施した。特にTipolo小学校では、児童とともに日本とフィリピンの単語を教え合う学習を現地小学校教員が事前準



備してくれて、本学の学生も児童とのコミュニケーションが円滑にとれたと思われる。また小学校併設の児童保護施設も訪問し、日本から持参した菓子を園児たちにプレゼントし、園児たちとマスゲームをして交流した。研修を通じて英語学習だけではなく、様々な施設を訪問したこと、外国で友だちと過ごしたこと、新しい友達と出会えたこと、色々な貴重な体験をしてきた。帰国後、報告会が催され、参加し

た学生たちは研修の感想と経験について率直な思いを述べ、実りの多い研修であった。

#### 4. 学科誌「ASIA-社会・経済・文化-」第4号の発行

2011 年、本学科の設立と同時に、学科特色の一つとして、また学科教員の研究活動に対する 姿勢の表れとして、学科誌「ASIA―社会・経済・文化―」が創刊された。第2号を出した後、 諸般の事情によりしばらく休刊していたが、2017年に復刊し、今年その第4号を発行した。学 科内外の研究者の協力のもと、第4号は日中関連の論考をはじめ、読み応えのある力作が揃っている。他大学の学科誌と比較し、内容も装幀も遜色ないと自負している。論文・図書・雑誌 等の学術情報データベース・サービス CiNii によれば、現在日本国内において74の大学図書館が本学科の学科誌を所蔵している。

### 【東大阪大学短期大学部】

## [1] 実践食物学科

### 1. 実践食物学科 2コース制 (栄養士コース・製菓衛生師コース) の充実

本学科は栄養士養成課程である「栄養士コース」と製菓衛生師養成課程「製菓衛生師コース」



の2コース制となったが、各養成課程の必須科目はそれぞれ 独立しているため、製菓実習関係科目相当として新たに迎え た教員とともに、新カリキュラムに基づいた授業運営と学生 への指導を実施した。また、実習室や実験室及び各備品の使 用についても適切な運営を図り、卒業時には製菓衛生師の国 家資格を取得できる体制とした。さらに、栄養士コースと製 菓衛生師コースと連携することで、高栄養価や生活習慣病予 防を目的とした洋菓子およびパンの商品開発を行った。

11 月に行われた三重県の平成30 年度製菓衛生師国家試験において、製菓衛生師コースの受験者全員が国家試験に合格することができた。また、本年度より予定していたテーブルコーディネーターの資格講座を実施することができた。







「商品開発したマドレーヌ」
「テーブルコーディネートとフラワーアレンジメントの授業」

製菓衛生師コースの学生(1年生・2年生)が作ったコオロギパン、コオロギクッキーの試作品を栄養士コースの2年生が卒業研究(昆虫食)として、大阪や京都などの昆虫食イベントにて提供し、アンケート調査では好評であった。







コオロギクッキー、コオロギパンの試作品

グランフロント大阪で試食会







製菓衛生師コース授業

#### 2. 入学前教育による学生の意識改革

栄養士や製菓衛生師を目指すための専門分野の学習をするにあたり、高校において化学や生物を受講していないなど、不安を持つ入学者がいる。また、高校までの授業と短期大学での授業の進め方などにギャップを感じる学生も多い。3月に入学前教育を受講することで、これらの不安やギャップが解消され、大学での心構えや大学の雰囲気を入学前に味わうことができ、栄養士、製菓衛生師それぞれの資格を目指す動機づけに繋がったという学生たちからの評価があったため、引き続き実施した。

平成30年3月5日、6日に、平成30年度入学生を対象に、下表の通り入学前教育を実施した。6日には90分間(実習の1.5コマ分)の製菓実習を行った。

E	3 程		入学前セミナー(実践食物学科)	
	3 目5 日 10:40∼12:10		ガイダンス・短期大学で何を学ぶのか	松井
3月5日 (月)	10.40~12.10	講義Ⅱ	栄養士・製菓衛生師の基礎知識	12:71
(/1/	13:00~14:30	講義Ⅲ	栄養と体の基礎知識	源
	9:00~10:30	講義I	食生活と食文化の基礎知識	富田
3月6日 (火)	10:40~12:10	講義Ⅱ	食事バランスガイドを作ろう	山下
	13:00~14:30	講義Ⅲ	お菓子作り体験	岡本



The state of the s

「短大で何を学ぶのか」の講義

「食事バランスガイド」の講義



「お菓子作り体験」の講義



「フォンダンショコラケーキ」

# 3. 初年次教育とリメディアル教育

高校までの学習の中で、特に分数や割合といった計算力あるいはレポートの書き方といった 基礎的な学力が欠如したまま過ごしてきた学生の存在が、平成28年度に実施した初年次教育 とリメディアル教育で判明した。また、敬語を満足に使えない学生も多いことから、パソコン やスマートフォンを利用した基盤教育Web教材「ひがドリ」で、敬語の使い方を修得するため の国語、実習や実験の科目の中で、学習内容に関係する簡単な計算問題を解かせる数学を中心 に取り組ませた。学習不足のある学生を早期に発見するとともに、学生の基礎学力を向上させ、 専門分野の学習へスムーズに移行させることで、就職面接や校外実習先で好印象を得られた。 毎週、「ひがドリ」取り組み実施状況一覧表を教員間で共有することで、個別に実施を促すこと ができた。また、製菓衛生師国家試験の過去問を「ひがドリ」で手軽にパソコンやスマートフ オンで学習できるようにし、受験者全員が合格できた。

## 4. 本学付属高等学校との高大連携強化

本学の附属学校の一つである東大阪大学敬愛高等学校の調理・製菓コースの生徒を対象として、単位互換科目としての授業(「食生活論」)や大量調理実習での試食体験を実施した。東大阪大学柏原高等学校のスポーツコースの生徒を対象とした「進路研究」でのスポーツ選手としての「栄養学の基礎」及びキャリアアップコースの生徒を対象とした「フードマネジメント」なども実施した。いくつかの授業を本学科の教員が担当することで、栄養士(食に関するミニ授業)、製菓衛生師(洋菓子、パン、カフェデザートなどの体験実習)それぞれの資格を目指す動機づけを行うとともに本学への進学を促した。担当する教員を増やし、大学・短大の陸上部の学生に対して実施している食生活習慣の改善プログラム等、よりバリエーションのある授業を展開し、高大連携の一層の強化を図った。また、調理・製菓コースの生徒を対象とした食生活調査を行い、その結果で改善すべき項目については、フィードバックをし、健康的な食生活の改善に繋がるよう働きかけを行うとともに、本学内での製菓実習を4回(延べ147名)実施した。付属の柏原高等学校では5回(延べ100名)の出張授業(製菓実習)を行った。その他大阪府内の高等学校、7校で出張(製菓実習・ガイダンス)授業等を実施した。また、学内にて4回のケーキ作りイベントを開催した。





10月26日(金)敬愛高校の生徒達にランチ(AF2Aの給食管理実習)を提供している様子





敬愛高校・柏原高校の生徒達にケーキ作りの授業





敬愛高校・大学の陸上競技部に「山下ゼミ」の学生からプロテイン入りクッキーをプレゼント

#### 5. 地域との連携強化による実践教育

地元東大阪市の野菜「小松菜、おかわかめ」、大阪府の「なにわの伝統野菜」、和歌山県特産の果実「オーラスター、梅」、京都府城陽市の「なつめ、茶葉、いちじく」、滋賀県甲賀市の「抹茶、ほうじ茶」、兵庫県篠山市の特産物など近畿の農産物を活用した。また、東大阪市大学連絡協議会をはじめ、各地域の団体と進めている商品開発に繋がる取り組みを、各教員の個人研究のテーマとして進めていくだけでなく、栄養士コースの「調理学実習」や「応用栄養学実習」、製菓衛生師コースの「製菓実習」をはじめとした調理を伴う実習や「卒業研究」に積極的に取り入れることで、学生の食物に対する知識を深め、食材の特性に沿った料理技術の習得を目指す実践的な教育を行った。製菓衛生師コースでは、企業研修(インターンシップ)の強化(2年間で2回)をすることでアルバイトの身分から正規採用(大手企業)に繋がった。昨年度は製菓衛生師コースの岡本先生と和菓子の「菓匠庵・白穂」の共同開発で「しょうゆマドレーヌ」を商品化した。

2018年11月17日(土)、18日(日)の両日、東大阪市の花園中央公園特設会場にて「ゆるキャラグランプリ®2018」が開催された。その会場で、東大阪大学短期大学実践食物学科の学生が考案した「2019年花園出場7カ国風カレーパン」が販売された。

大阪や京都などで昆虫食イベント(試食会・講演等)を二十数回実施した結果、ネット上(ヤフーニュース等)や新聞(東大阪新聞・読売新聞・朝日新聞)紙上に東大阪大学短期大学部が紹介された。



学内の公開講座(災害食と昆虫食)



京都イオンモールで昆虫食の試食会





10月13日(土) ひがしおおさか体感まち博2018「自宅でカレーパン?できるんです!」





11月17日・18日「ゆるキャラグランプリ®2018」in 花園にてカレーパンの販売

# 6. 在学生の健康管理

入試面接時には学習障害等の有無が分からず、入学後に判明するケースが見受けられる。学生相談室とも連携し、障害学生支援委員会に諮ることで特別な配慮による学習環境の支援体制を整えた。また、入学時よりBMIが25以上の肥満学生が年々増加している。特に実践食物学科・栄養士コースの学生については、将来、栄養士として栄養指導をする立場であることから、自らの体型・健康状態を意識することは極めて重要と考えた。「実践健康教室」にて集団栄養指導と並行し、個人栄養指導で標準体重に近づけることで、メタボリックシンドロームの予防を図った。 参加申込者11名で、4月~10月の集団指導6回中、平均6名の参加であった。結果は、実施期間中で多少の体重減少はみられたが、最終的には現状維持が8名、3名に、一3.1kg、-5.6kg、-5.8kgの体重減少がみられた。また、現状維持ではあったが、「食事に対する意識を変えたことで、暴飲暴食は減り、これまでの増加率は防げた」との意見もあった。





「実践健康教室」の集団指導の実施風景

#### 「実践健康教室」の集団栄養指導参加人数

日時	担当教員	指導内容	参加人数
4月18日	松井	肥満は、なぜ怖いのか	7
5月16日	松本	食事で内臓脂肪を減らす	9
6月20日	早田	運動で内蔵脂肪を減らす	5
7月18日	山下	食事バランスガイドで食生活チェック!	6
9月26日	濱田	間違ったダイエットに注意	5
10月17日	松井	リバウンドしないために	5

## [2] 実践保育学科

#### 1. ダブルアシスト制の充実

クラス担任教員(アドバイザー)と小グループ担当教員(コーディネーター)とのダブルアシスト制を導入で、これまでの担任だけでは充分に対応しきれない問題にも対応することができている。特に、学科専任教員全員で学生達とかかわることで、学生と教員との距離感が縮まり、教員も個々の学生についての理解を深めることができ、学生たちも履修や実習での相談を積極的にするようになっている。27年度から必修となった卒業研究発表もこのダブルアシスト制を活用することにより、学生たちに、「書く力」「調べる力」「発表する力」の基礎をつけていくことができた。

# 2. 入学前教育の実施

入学前教育を充実させるため、平成 31 年 3 月 4 日 (月)  $\sim$  6 日 (水) の 3 日間にわたり、下記の表の通り入学前教育を行った。

「実践保育学科の学びから未来予想図を描こう」をテーマとして、「実践保育学科で学ぶこと」 や各種実習(幼稚園・保育所・施設)についての説明を行い、学科の特性の一つでもある保育 教材の製作やピアノ基礎演習についても学習し、入学後のスムーズの取り組みに生かした。

日 程		実践保育学科	
3月4日(月)			
9:00~		ガイダンス	乾(学科長) 921 教室
9:10~10:30	講義	感染防止について	池澤 921 教室
10 : 40~12 : 10	講義	保育の環境を考える(演習を通して)	後藤 921 教室
3月5日(火)			
9:00~ 10:30	講義	幼児期の遊び活動から (A)	野尻 921 教室
	演習	楽譜の読み方とピアノ基礎演習(B)	篠原 231/241
10 : 40~12 : 10	講義	幼児期の遊び活動から (B)	野尻 921 教室
	演習	楽譜の読み方とピアノ基礎演習(A)	篠原 231/241
13 : 00~14 : 30	講義	保育・教育について学ぼう	条田 921 教室
3月6日(水)			
9:00~ 10:30	講義	身近な法律よもやま話	野々村 921 教室
10 : 40~12 : 10	講義	保育英語	大矢 921 教室
13 : 00~14 : 30	講義	セミナーを終えて	乾(学科長) 921 教室

#### 3. 新入生宿泊オリエンテーションの実施

新入生を早く大学生活に慣れさせるために一泊二日の宿泊オリエンテーションを実施した。 資格取得に向けての取り組みや大学での学習の心得などを宿泊オリエンテーションで指導した。 人に迷惑をかけることなく、自らの責任を果たし、一人の社会人として活躍することの意義 を学ぶことや、自分を大切にすること、他人を理解すること、そして、互いに協力することを 学ぶ取り組みを行った。新入生同士の親睦を深めることができるように留意したことにより、 大学生活になじみやすい環境づくりにもなった。



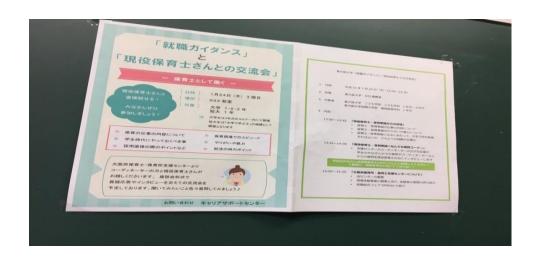


宿泊研修での様子

#### 4. 資格取得について

現在は、幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の取得が可能になっているが、30年度にあっては、これらの4つの資格をすべて取得した学生は少数で、多くは幼稚園教諭と保育士資格を2つを取得する学生が大半を占めた。幼稚園または保育士のいずれか1つの資格しか取得せず、あるいは資格を取得しないまま卒業して行く学生も若干名いたが、全体的には9割強の学生が何らかの形で保育系関係施設に就職した。

また、本学内において保育係施設関係者による就職説明会を今年度も開催し、学生たちも熱心に各テーブルを回っていた。







保育系施設関係者による就職説明会の様子

#### 5. 学生の学習状況について

実践保育学科では、できる限り学生が幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用 資格、認定ベビーシッター資格の4種類の資格をすべて取得するように指導してきた。特に、 認定こども園などの増加傾向にある保育行政の推移を考えながら、保育教諭として認められる には、幼稚園教諭2種免許状、保育士証の2つの免許・資格が必要であることを学生たちには、 新入生宿泊オリエンテーションや、機会あるごとに学科の教員がそれぞれの授業の中でも詳し く説明をしている。

また、本学科での学業の成果の集大成として、卒業研究において前期は学科テーマとして子ども虐待防止の「オレンジリボン運動」を設定し、各ゼミ担当者のもとで研究を行い、パネル発表、演技・紙芝居・歌発表を行った。また、大学祭でも「オレンジリボン運動」を実施し、参加を呼びかけた。後期はクラス単位での卒業研究発表会を1月31日に行った。附属幼稚園児や近隣の保育所園児や小学生、敬愛高校のこどもコースの学生、さらには本学のこども研究センター利用の子どもたちを招待して実施した。Aクラスは、「赤ずきん」、Bクラスは、「3匹のこぶた」に取り組み、企画から脚本、大道具、小道具、衣装、音響、照明に至るまで、教職



員指導のもと、すべてを学生たちが練り上げた劇、ダンス、歌、手遊びの発表がなされた。



前期 卒業研究 ゼミ別発表

パネル発表会

### 6. ボランティア活動への参加

学科として、学生にインターンシップも兼ねボランティア活動に積極的な参加を呼びかけている。この2年間ほどは、学生のボランティア活動への参加も着実に増加している。

1年後期に「ボランティアに学ぶ」の授業を行っているが、参加への指導を入学当初から行 う必要もあり、1年前期に「ボランティアに学ぶ」の授業を行い、1年後期・2年前・後期に 演習に取り組んでいきたいと考えている。

## 7. 海外研修への参加

海外でも活躍できる保育者養成をめざし、本学科の学生が夏休みに主にアジアにある日本人向け幼稚園等の見学会に参加している。将来的には海外における保育施設等への就職も含め、 今後も引き続き多くの学生を海外研修へと参加させていく予定である。

# [3] 介護福祉学科

#### 1. はじめに

我が国の人口構造の少子高齢化の伸長により、介護等を必要とする高齢者数は増加の一途をたどり、2025年には団塊の世代が一斉に75歳(後期高齢者)となる、所謂2025年問題を目前に控えている。その際、厚生労働省による試算では、不足するとされる介護要員は39万人を上回る。要介護者等に対して相対的に不足する介護要員について、本邦の若者の介護職離れは著しく、諸外国の有為の若者を招いて教育し、介護の一端を担ってもらうための施策が展開されている。技能実習生の介護への拡大、さらに介護福祉士の国家資格保持者に対する在留資格の付与等の積極策により、我が国の介護現場に主にアジア諸国からの介護要員が増加すると予測されている。

本学介護福祉学科は、地域に根差した高等教育機関として、東大阪市を中心とする地域の介護要員不足の解消のため、あるいは社会人への教育、介護家族の方々への方法論の学習機会の提供、地場産業との福祉機器等の産学共同研究、近隣福祉現場へのボランティア参加等を計画して運営している。

平成30年度は、邦人学生1名、留学生80名が入学し、学習、実習等に励んだ。認可から開設までの時間不足により、邦人の獲得は思いに任せなかったが、有為の留学生を多数迎えてスタートした。半数の学生は母国において高等教育を修了しており、専門職のライセンス保持者で優秀な者は6人に上る。一方、言語の相違はもとより、生活習慣、学習習慣の相違等もあり、途中で国家資格取得を断念する学生もあった。

#### 2. 根拠に基づく行為 (Evidence-Based Practice) の教育

介護福祉士の身分法である「介護福祉士法」から、排泄、入浴、食事の介助等を行う福祉士という文言が消去された。これらは現場におけるルーティーンワークであり、国家資格保持者の本来の業務ではないとされ、特に高等教育を修めた介護福祉士に求められるものは、根拠に基づく行為(Evidence-Based Practice)である。本学科の教員は、すべて他大学において教職を経験している者を採用しているため、高度な知識と技術の融合を目的とする教育を実施している。特に最新の自立支援、持ち上げない介護技術については、他の養成機関の追随を許さぬレベルで、正に介護の東京大学というに相応しい。本学科は、毎週木曜日に lunch-on meeting

を実施し、教員の意思疎通を図り、最新知識の共有、研究成果のレビュー等、大学におけるスタンダードな学科運営をしている。

#### 3. 地域貢献

本学の所在地である東大阪市において、各種施設に対するボランティア活動に積極的に参加 し、中河内地区の介護施設等の介護要員を対象とする夜間講座を積極的に行い、好評を博して いる。大阪府社会福祉協議会の協力の元、多くの地元法人との交流を行い。本学科の評価はう なぎのぼりの状況である。東大阪市の行政と共に歩む学科を構築していくという目的のため、 東大阪市介護認定協議会に人材を派遣している。地域に根差し、地域性を活かした学科づくり を更に推進するものである。

#### 4. 国際介護学研究

本学科は、本邦の学生に加えて、韓国、中国、フィリピン、ベトナム、スリランカ等の、多くの国々の学生が共に学ぶという特徴を有する。アジアの介護先進国である我が国で介護福祉を学び、地域社会の介護要員として勤務することは勿論であるが、母国の介護福祉のリーダーたる人材を教育し、アジア諸国に対して貢献することも目的とする。生活習慣、風習、宗教とが異なる環境で、いかに介護を行うかという課題に取り組んでいる。国籍を超えた介護の共通基盤構築のための研究をたゆまず行っている。

#### 【大学・短期大学部共通】

#### [1] 教学支援部(教務担当)

#### 1. 教職課程再課程認定への対応

昨年度に文部科学省より示された教職課程コアカリキュラムの変更により、こども学科の幼稚園教諭一種、小学校教諭一種、実践食物学科の中学校教諭二種(家庭)、栄養教諭二種及び実践保育学科の幼稚園教諭二種の各教職課程において、開設科目の変更、科目名の変更、カリキュラム内容の変更、担当教員の変更等を行う必要が生じました。このため各学科及び担当教員と綿密な連携を行い、文部科学省へも問い合わせをするなど、約半年間を要して適切な対応を実施し、申請書を作成し提出しました。

#### 2. 保育士養成課程の見直しへの対応

今年度に文部科学省より示された保育士養成課程の教科目の見直しにより、こども学科及び 実践保育学科の保育士養成課程においても開設科目の変更、科目名の変更、カリキュラム内容 の変更、担当教員の変更等を行う必要が生じました。このため両学科及び担当教員と綿密な連 携を行い、適切な対応を実施しました。

## 3. 所轄官庁による調査への対応

10月4日(木)に近畿厚生局による実践食物学科栄養士コースに対する栄養士養成施設に係る指導調査が、11月19日(月)には文部科学省大学設置室による介護福祉学科への設置計画履行状況等調査における実地調査実施されたため、それぞれ事前提出資料の作成及び提出、当日に必要な書類の準備及び当日の質疑対応を行いました。

## 4. 新学科、新コースへの対応

4月に短期大学部に介護福祉学科が開設され、授業が開始されましたが、学生のほとんどが 留学生であるため、学生の履修方法や履修状況について担当する教員と情報共有を密にして対 応しました。また、昨年度に開設された短期大学部実践食物学科製菓衛生師コースの完成年度 に当たり、国家試験受験への準備と諸手続きの対応をしました。

## 5. 免許更新講習の開催

8月20日(月)~24日(金)に行われました、「2018年度 教員免許状更新講習認定講座」には、必修領域に261名、選択必修領域に269名、選択領域に828名の延べ1358名の受講者がありました。(昨年度より延べ人数258名増)今年度も幼稚園、保育園(所)の先生方が多くキャンセル待ちがでるほどでした。参加された先生方の感想は、「楽しく講習を受講することができました。ありがとうございました。」「早速、園児と一緒にやってみようと思います。」などのお声がありました。また、今年は、台風接近に伴い昼食時間の短縮や、最終日は中止になるかどうか多くの問合せがありました。

次年度の募集も始まります。今年度の反省、検討するべき点を討議し受講された先生方を始め、教育現場で頑張っておられる先生方が自らの目指す教育実践を積み上げていかれることを願っています。









講習日	認定番号	区分	講習の名称	担当講師	認定受 講者数
8月20日	平 30-30467-100576 号	必修	教育の最新事情 1	乾 公作 渡邉 由之	71 人
8月20日	平 30-30467-100577 号	必修	教育の最新事情 2	永久 欣也 野尻 美津代	190 人
8月21日	平 30-30467-301282 号	選択必修	学校をめぐる近年の状況の変化	富田 昇 市橋 正巳	35 人
8月21日	平 30-30467-301283 号	選択必修	教育相談 (いじめ及び不登校への対応を含む)	渡邉 由之	37 人
8月21日	平 30-30467-301284 号	選択必修	就学前教育の意義と家庭支援	吉岡 眞知子 川谷 和子	118人
8月21日	平 30-30467-301285 号	選択必修	道徳教育	野尻 美津代 永久 欣也	79 人
8月22日	平 30-30467-505225 号	選択	子どもと文学/言葉の世界	渡邊 ルリ 井上 幸	66 人
8月22日	平 30-30467-505226 号	選択	こどものアンサンブル音楽	丹山 三恵子	33 人
8月22日	平 30-30467-505227 号	選択	幼稚園における造形表現	松村 和代	38 人
8月22日	平 30-30467-505228 号	選択	幼児期における基礎的能力の発達	冨田 昇	114人
8月22日	平 30-30467-505229 号	選択	食と成長	源 伸介	86 人
8月23日	平 30-30467-505230 号	選択	子ども理解と児童期の心理	市橋 正巳 髙岡 忍	55 人
8月23日	平 30-30467-505231 号	選択	Scratch を用いたプログラミング教育	矢島 彰	35 人
8月23日	平 30-30467-505232 号	選択	幼稚園、保育所におけるアンサンブル音楽	丹山 三恵子	32 人
8月23日	平 30-30467-505233 号	選択	子ども理解と保護者理解	吉岡 眞知子 渡邉 由之	118人
8月23日	平 30-30467-505234 号	選択	食と健康	山下 絵美 濵田 尚美	36 人
8月24日	平 30-30467-505235 号	選択	学校の法律問題と子どもの人権	乾 公作 野々村 宜博	60 人
8月24日	平 30-30467-505236 号	選択	理科教育の最新事情	杉本 剛	40 人
8月24日	平 30-30467-505237 号	選択	幼稚園における造形表現	松村 和代	40 人
8月24日	平 30-30467-505238 号	選択	小学校につなぐ英語活動	大矢 智子 杉本 孝美	35 人
8月24日	平 30-30467-505239 号	選択	食の防災と食糧事情	松井 欣也	40 人
合計					1358 人

## 6. 大学コンソーシアム大阪について

大学コンソーシアム大阪の単位互換事業として、他大学の学生 2名(後期 こども学 $\Pi$ )を受け入れ、単位認定をしました。

## 7. 音楽棟の利用

2 号館は、音楽棟として、大学生と短期大学部生がピアノの練習を目的として利用できる施設です。練習室は60室(アップライトピアノ)あり、全室防音・冷暖房完備となっていて、平日の9時から17時まで利用でき、音楽担当教員の研究室があり、ピアノ室管理のため事務職員が1名常駐しています。今年度の年間利用状況を以下に示します。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	合計	516	1126	1017	903	0	239	839	724	757	459	35	0	6617
	短大1	74	364	296	297	0	170	317	161	225	131	17	0	2052
学	短大2	97	211	120	159	0	37	147	160	123	58	1	0	1113
生	大学1	254	387	488	340	0	24	302	354	368	228	18	0	2764
区	大学2	48	94	84	57	0	8	58	41	37	27	0	0	454
分	大学3	38	59	14	35	0	0	8	4	1	14	0	0	173
	大学4	3	6	8	13	0	0	7	0	0	0	0	0	37

	科目履修生	2	5	7	2	0	0	0	4	3	1	0	0	24
	~30分	64	118	93	116	0	18	71	58	107	84	8	0	737
<b>%</b> ±	~60分	217	239	190	238	0	76	124	95	144	121	13	0	1457
練習	~90分	136	301	237	215	0	88	237	161	199	89	7	0	1671
時	~120分	92	439	453	290	0	54	371	361	277	140	3	0	2480
間	~150分	1	20	27	28	0	2	20	32	18	12	4	0	164
	~180分	0	3	2	5	0	1	8	5	3	1	1	0	29
	180 分~	6	6	15	11	0	0	8	12	9	12	0	0	79
	~09:00	0	2	0	1	0	0	0	9	2	16	0	0	30
時	$\sim$ 12:10	301	555	437	351	0	185	444	410	446	233	4	0	3367
間	$\sim$ 13:00	47	154	211	188	0	21	179	133	124	80	13	0	1150
帯	$\sim$ 16:10	126	289	239	189	0	23	163	114	103	95	16	0	1357
111	$\sim$ 17:00	42	126	117	158	0	10	53	58	82	35	3	0	684
	$\sim$ 18:00	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	月	83	129	72	89	0	7	42	107	144	32	4	0	709
	火	52	119	110	148	0	10	51	16	34	43	6	0	589
曜	水	69	367	280	192	0	164	308	134	192	102	4	0	1812
日	木	75	236	143	157	0	42	179	217	161	96	16	0	1322
	金	131	239	412	311	0	16	259	250	177	186	6	0	1987
	土	106	36	0	6	0	0	0	0	49	0	0	0	198

15:30~16:30の間4階10室を東大阪大学敬愛高等学校が以下のように利用しています。

月	使用日数	教員数	生徒数	平均生徒数(1日)
5月	11	月、火、水2名)	85	8
		木、金(1名)		
6月	18	月、火、水(2名)	112	7
		木、金(1名)		
7月	1	月(2名)	8	8
9月	16	月、火、水(2名)	65	4
		木、金(1名)		
10月	16	月、火、水(2名)	52	3
		木、金(1名)		
11月	16	月、火、水(2名)	70	4
		木、金(1名)		
12月	1	月(2名)	5	5
1月	5	月、火、水(2名)	18	4
		木、金(1名)		

## 「2] 学生支援部(学生担当)

## 1. 社会のルールや人との約束を守れる人物に

オリエンテーション時に、学生生活における注意事項をまとめた冊子「学生の皆さんへ」を配付し、カレッジガイド・キャンパスガイドの内容とともに、平成28年度の道路交通法及び選挙制度の改定により、学生の社会に参加する一人の人間として必要な人間力の向上が高く求められている事等を中心に指導した。その他、1年を通して、掲示板等に注意喚起のポスター掲示を行い、継続的に啓発を行った。

## 2. 学園祭を通じて地域社会とのつながりを

有志学生で組織される学園祭実行委員会が、東大阪市地域の方々や企業等に協力・援助を依頼し、翔愛祭の成功という目的を達成する為に活動をしている。その活動の中で、地域で活躍されている方々とコミュニケーションを取り、物事を相手に伝える力や聞く力を身に付け、幅広く情報を集めるという体験の中から、社会人として必要な能力を身につけることが出来る。平成30年度の翔愛祭は、テーマを「和」とし、平成30年10月21日に開催した。今年度の学園祭実行委員は2年生が3人、他は1年生と翔愛祭の経験が少ないメンバーでした。それでも

4 年生の先輩たちのアドバイスを聞きながら翔愛祭の成功に向け一生懸命努力していました。 当日は大きなトラブルもなく、無事終える事が出来たが、いくつかの反省点があったことも事 実である。この成功や失敗は彼等にとって今後の社会人としての礎になると考える。

#### 3. 年中行事に合わせた学生会・学友会による企画

毎年行っている学生会・学友会主催の新入生歓迎会やクリスマス会はビンゴ大会や各クラブ の発表などで盛況で終わりました。電飾は経年劣化により使用が難しいものについては、教員 に依頼をかけて、授業の一環で学生たちに新しい電飾を作成してもらった。

#### 4. ボランティア活動等の充実

ボランティア等の依頼情報を常設の学生ラウンジ掲示板に適宜掲示を行った。学生はこの掲示板、もしくは、担当教員からの情報提供に基づき、小学校の放課後学童指導等のボランティアに参加していた。

## 5. クラブ活動について

2018 年度各クラブの部員数は、次のとおりです。 文科系クラブ (4 クラブ)

クラブ名	顧問	部員数
ダンス	渡邊ルリ	14
人形劇(ブロッサム)	大矢智子	1
フォークソング	後藤由美	13
国際交流クラブ	井上幸	9

体育会系クラブ (7クラブ)

クラブ名	顧問	部員数
空手道	野々村宜博	4
フットサル	潮谷光人	8
バスケットボール	高岡忍	21
バレーボール	潮谷光人	11
軟式野球	渡邉由之	14
バドミントン	渡邉由之	12
陸上競技	柿内貞宣	14

2018 年度は、クラブ数が 11 クラブ、総部員数が

# 91名となりました。

上記以外に、同好会として「音楽サークル(顧問:丹山三恵子)」3名と「映画研究サークル (顧問:大矢智子)」3名と「柔道(顧問:鷹野和美)」3名と「筝曲部(顧問:髙岡忍)」4 名が活動した。

#### ○大会結果

公式大会における目立った記録としては別表のとおり、本学陸上競技部が、日本陸上競技選手権大会等の全国大会において、素晴らしい成績を残してくれました。

今後のますますの活躍が期待されます。

大会名: GP 第 66 回兵庫リレーカーニバル ジャカルタ 2018 アジア競技大会日本選手権選考競技会					
開催月日:4月21日(土)22日(日) 場所:兵庫県 ユニバー記念競技場					
種     目     氏     名     学年     記録     順位					
走高跳	津田 シェリアイ	AS4	1m80	優勝	

	大会名: GP 第 34 回静岡国際陸上競技大会 兼ジャカルタ 2018 アジア競技大会日本選手権選考競技会								
開催月日:5	開催月日:5月3日(木) 場所:静岡県 エコパ								
種 目	氏 名	学年	記録	順位					
400m	川田 朱夏	CS1	53 秒 58	優勝					
800m 川田 朱夏 CS1 2分02秒71★ 優勝									
★800mの記録	录は大会記録である								

大会名	占: GP 第5	回木南	道孝記念陸上競技	大会			
開催月	月日:5月6日	(日)				場所:大阪府 ヤンマースタジア、 ーフィールド長居	ム長居・ヤンマ
種	目	氏	名	学生	F	記録	順位
400m		川田	朱夏	CS1		53 秒 78	優勝

大会名: GP 第	15 回田島記念陸上競技大会			
開催月日:6月3日	目 (目)		場所:山口県 維新みらいふス	タジアム
種 目	氏 名	学年	記録	順位
800m	川田 朱夏	CS1	2分05秒67	優勝
大会名:第18回ア	・ジアジュニア陸上競技選手	権大会		
開催月日:6月7日	日 (火) ~10 日 (日)		場所:岐阜県 岐阜メモリアル 川陸上競技場	センター 長良
種 目	氏 名	学年	記録	順位
800m	川田 朱夏	CS1	2分04秒14	優勝
4×400m	川田 朱夏 (4 未)	CS1	3 分 38 秒 20★	<b>優</b> 勝

※アジアジュニア大会日本代表 金メダリスト

★4×400mの記録は大会記録である

大会名:第102回日本陸上競技選手権大会 兼ジャカルタ2018アジア競技大会日本選手権選考競技会					
開催月日:6月22日~24日					
種 目	氏 名	学年	記録	順位	
400m	川田 朱夏	CS1	53 秒 75	優勝	
800m	川田 朱夏	CS1	2分04秒01	3位	
大会名:第 17 回 U20 世界陸上競技選手権大会					

 大云名: 第17回 020 世外陸上競技選手権人云

 開催月日: 6月 26日~28日
 場所: フィンランド タンペレ

 種 目 氏名
 学年記録
 順位

 800m
 川田 朱夏
 CSI 2分03秒57
 6位

※世界ジュニア大会日本代表 800m世界ジュニア過去最高順位タイ入賞 リレー種目にも出場

大会名:第18回アジア競技会				
開催月日:8月25 F	日(土)-30日(土)		場所:インドネシア・ジャカルタ	
種目	氏 名	学年	記録	順位
女子 4×400m	川田 朱夏 (1 走)	CS1	3分34秒14	5位
$MX4 \times 400 m$	川田 朱夏 (2 走)	CS1	3分21秒90	5位

※アジアジ大会日本代表

大会名:天皇賜盃第87回 日本学生陸上競技対校選手権大会				
開催月日:9月6日	(木) ~9日(日)		場所:神奈川県 等々力陸上競技場	川崎市
種 目	氏 名	学年	記録	順位
400m	川田 朱夏	CS1	54秒13	3位
800m	川田 朱夏	CS1	2分06秒54	3位
走高跳	津田 シェリアイ	AS4	1m78	2位

大会名:第73回国民体育大会 陸上競技 ~福井しあわせ元気国体~							
開催月日:10	月5日(金)	~9 日 (火)			場所:福井県	福井県営陸上競技場	•
種 目	氏	名		学年	記録		順位
成年 400m	川田	朱夏		CS1	53秒97		優勝

※走高跳:津田さんの記録は自己新記録である

大会名:第32回日本ジュニア選手権							
開催	月日:10月19	日 (金)	~21 日 (日)		場所:愛知県	瑞穂運動公園陸上競	技場
種	目	氏	名	学年	記録		順位
800m	1	川田	朱夏	CS1	2分05秒14		2位

※800m の記録は大会新記録

# [3]入試広報部

「入学者の充足率を定員の100%以上にする」(充足率100%以上)を基本目標として、 下記活動を実施した。

## 1. 入試制度

社会の多様なニーズに対応するため、現行入試制度の見直しや多様な入試制度を検討した。 加えて特別推薦校、指定校の見直しを不断に行い、高等学校との連携強化に努めた。

#### 2. 広報活動

- (1) 大学・短大案内等の広報資料は、高校生にアピールできる内容、表現に統一し、大学生活の学習計画を実感できるような構成に努めた。
- (2) 各種広報媒体については、費用対効果を図りながら実施媒体を選定し、コスト削減に努めた。
- (3) 高校内や会場での進学説明会への参加については、費用対効果を考慮して参加した。
- (4) 高等学校等については、重点校を特定して具体的な学生獲得数を目標設定し、効果的な 訪問を行った。具体的には、重点校の一校当たりの推薦枠を拡大して、過去5年間、入学 実績のない高校や、本学と取り組む意欲の無い除外した。
- (5)ホームページについては関係部署と連携し、本学の情報発信の核となるよう充実させた。 また、スマホや SNS 等の情報媒体を効果的に利用して、高校生に本学の魅力や特徴を直接的に訴えた。

#### 3. 学生募集活動の業務について

- (1) 本学の強み・魅力を進路説明会等で高校生にアピールするなど人海戦術を中心に展開した。
- (2) 資料請求データ、高校訪問や進学説明会のデータ、オープンキャンパス参加データなど 客観的データに基づいてきめ細かくかつ漏れなく高校生に本学受験を働きかけた。
- (3) 高校側のニーズ、志望校選択のトレンド、競合校の動向等の情報収集に努め、それを学内にフィードバックして、効果的な学生募集活動を展開した。

#### 4. オープンキャンパスについて

オープンキャンパスを通じて本学の魅力や特徴を伝えるため、高校生が注目して興味を持つような内容のオープンキャンパスを実施した。

(1) チラシ、DM、ホームページ、高校訪問等あらゆる媒体を活用して、高校生にオープン キャンパスへの積極的参加を呼びかけた。 (2) 学科の特徴をアピールしたミニ授業、継続的テーマを持ったプログラム、こども研究センターと連携したイベント、入試対策説明会など、高校生の目線でオープンキャンパスの内容を検討し実施した。

#### 5. 高等学校との連携強化について

高大連携の促進や、進路指導担当教員への働きかけを強化した。

- (1) 敬愛高校および柏原高校において出張授業を企画し、本学の教育内容を説明するととも に継続学習のための内部進学をアピールした。
- (2) 高校の進路指導担当教員に対する入試説明会を見送ったために、個別説明に時間がかかり、通常業務(広報活動)に支障が出た。

### 5. 31 年度の振返り

2019年度4月入学生は、全学科で前年実績を下回る結果となった。

主な原因は、少子化の加速による高校生人口の減少に伴い、本学も含めた学力低位校が軒並 み受験者を減らす結果となっていることが考えられる。

本学に限った要因としては、本学在学生や卒業生が出身高校や家族に本学の教育に対する不満を報告し、それが近年、大きく流布されていることを感じている。

また、高校サイドとしても、本学に卒業生を送った後の学生情報が他大学に比べ大幅に少ないという不満も聞かれた。

また、近年、学力低位校や短期大学において、専門学校に流出する高校生を獲得するための様々な入試制度改革が行われており、年度前半に大方の受験者獲得を達成していることも考えられる。本学の入試制度の改革の遅れが、早期の受験者獲得に対して、マイナスに働いている側面もあり、早期に対策を打つ必要があると考える。

2020年度においては、上述の問題点の対策を実施していく。

#### 「4]総務部

#### 1. 補助金の確保

今年度、実践食物学科学生が収容定員数を満たしたため、補助金交付対象となった。それにより、平成30年度の一般補助収入が1,313,000円増えた。(平成30年度補助金収入100,268,000円、平成29年度補助金収入98,955,000円)

次年度は、収容定員充足率が 100%を目指したいが、2019 年度入学者数が思うように伸びなかったため、2020 年度入試に収容定員充足率 100%を目指したい。

特別補助については、本学の要件があと一歩というところで満たしていないため、今後補助 金獲得を目指していくには、補助金交付対象の要件にあった規程等の整備や取り組みを行って いかなければならない。

## 2. 予算の適正管理

予算執行時は、「購入等伺伝票」「出張届」「起案」等を事前に提出のうえ、決裁を得ることと なっており、総務部4人のチェック体制をとり適正に管理している。

### 3. 水道光熱費の削減

平成27年度に実施した学内LED化が空調更新等の他の設備投資により一時中断していたが平成30年度は8号館すべてをLED化に更新することができた。2019年度も引き続き9号館の一部をLED化にし、5年以内には大学・短期大学部全館LED化を目指したい。

#### 4. 公的研究費の管理

本学で整備している「個人研究費使用の手引き」「科学研究費助成金(学術助成基金助成金/科学研究費補助金)使用の手引き」を見直すとともに、新規採用者に対して、平成30年7月12日にて「研究倫理におけるコンプライアンス教育研修会」を実施した。さらに、平成30年12月12日には、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に対する本学の対応について研修を実施した。

また、科学研究費助成金継続者は大学 2 名、短期大学部 2 名の計 4 名であった。研究部門に係る経費及び管理部門に係る経費の定義で使用できる間接経費は、大学 330,000 円、短期大学部 696,000 円の合計 1,026,000 円であった。

#### 研究課題

大学

- (1)「野上弥生子『台湾』及び台湾関連日本近代文学の史料的・文学的価値に関する複層的研究」
- (2)「日本支配下の戦時上海及びその周辺地域における日中漫画家交渉の基礎的研究」 短期大学部
- (1)「第2言語習得課程における神経基盤の変化の研究」
- (2)「非行少年の社会復帰を目的とした表情認知能力の特性の分析と訓練プログラムの開発」

## [5] 図書館

2018 年度の入館者数 (2019 年 1 月 31 日集計) は、教職員を含めて 3,386 人、延べ貸出し冊数は、1,239 冊だった。年度末前の集計であり、現時点では昨年度より前者は微増、後者は微減している。学生の新聞・雑誌・書籍など紙に印刷された文字媒体の利用率の低下(活字離れ)が進行していると認識している。社会全体の現象だが、いかにして学生の図書館利用率を向上させることができるか、図書館の大きな課題の一つである。

# 1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供

(1)より良い教育と研究環境の構築を目標に、収書方針に従い、2018年度も引き続き「辞書・ 事典参考図書」及び本学図書館の一大特色として目指している各国言語によるテーマ別「ア ンデルセン絵本コレクション」の充実を図ってきた。 その結果、2018 年度末までの「辞書・事典類」冊数は 2,603 冊 (2019 年 1 月 31 日までの登録冊数) となり、「アンデルセン絵本コレクション」は、合計 35 ヵ国・地域、25 言語数の416 冊となっている。

当該コレクションの構築は長期にわたって継続収集する必要があるが、予算の削減及び図 書館運営形態の変化により、冊数の増加及びテーマの拡充に影響を与えている。





(2) 2018 年度末までの 蔵書数は以下の通りであ る(括弧内は前年度末の 数字)。

和書 74,933 冊

(73, 473) 洋書 6, 315 冊 (6, 262)

雑誌 612 誌 (608)

AV 資料 3,689 点 (3,626)

厳しい財務状況のなか、いずれも増加している。特に和書は、1,400 冊以上の増加があった。和・洋書の合計は、現在80,000 冊を超えている。

勿論、最新私立単科大学附属図書館の114,525冊の平均蔵書数(『平成29年度学術情報基盤実態調査』、2018年3月23日公開)と比較すれば、まだ相当な距離があり、更なる努力が求められている。(参考: 私立単科大学数:224大学/合計蔵書冊数:25,653,687冊)

#### 2. 図書館各種企画事業

2017年度も学生の図書館利用を促進し、教育活動を支援する目的で、各種企画を下記の通り実施した。

#### (1) 展示コーナーの充実

二年前から、図書館内に学科の特色を示す展示コーナーを設置し、展示内容の充実をはかってきた。一回目の展示テーマは「小学校国語教科書からみる近代日本の歩み」であった。明治初頭から現在までの小学校国語教科書の復刻版や参考資料を展示し、教科書内容の変化を通して近代日本の歴史及び教育の変遷の一部に触れることができる。また、「アジアの中の日本・日本の中のアジア」という企画コーナーも同時に設置し、日本とアジア諸国はどのような関係を築いてきたのか、今後はどのように変化していくのであろうか、関連書籍を展示・紹介をしている。今年度、その内容の更なる充実を図り、展示資料・書籍の購入、更新と追加を行った。

#### (2) 図書館通信「螢窓」

デザインを一新して4月号(春号)と10月号(秋号)を予定通りに発行した。また、4月号から新企画(本、あれこれ)の連載も始めた。教員紹介の「研究室訪問」も継続していて、学生の、教員を知る「窓」の役割を果たしている。

## (3) 学生による選書ツアー

春 (6月) と秋 (11月) に二回実施。参加した学生は合計 18名。(春13名、秋5名)、昨年度より参加者数が増えている。

# (4) 読書コンクール

今年度は関連授業と連動する形をとらず、計6編の自主応募があり、図書館が依頼した教員2名の審査により、最優秀賞、優秀賞、佳作賞(各1名)がそれぞれ選出され、2月27日に表彰式を行った。

## 3. 急を要する配慮事項

(1) 蔵書収納スペースの確保

現在、蔵書に対して収納スペースが狭隘となり、配架不可能な書籍が段ボール箱に収納されている状態である。この書籍の閲覧・貸出し手続きが非常に困難である上、新たな蔵書の整理も円滑に進まないため、新たな収納スペースの確保が必要である。今年度もその対策の一つとして卒業生による卒業記念品の費用で書架の増設を行った。

(2) セキュリティー装置の導入

2018 年度蔵書点検の結果、新たに不明本が発覚され、セキュリティー装置の導入の緊急性を改めて認識させられる。

セキュリティー装置の未整備のため、懸案の地域社会貢献の一環としての外部開放計画 も推進できない状態である。

(3) マイクロフィルムリーダーの更新

現在のマイクロフィルムリーダーは老朽化が進み、故障が多く、鮮明度も著しく落ちている。修理部品が入手できないため、更新が必要である。

## [6] キャリアサポートセンター

# 1. 就職支援対策講座

(1) 学外から講師を招聘し、就職試験対策講座を実施した。 【講座内容】履歴書・エントリーシートの書き方、 面接対策、ビジネスマナー、卒業生の講話 など

(2) 「教員採用試験対策講座」や「公務員(幼保)対策講座」の一環で教員が一般教養試験対策講座を定期的に開講した。 ※詳細は、後述の<成果について>参照



#### 2. 就職活動支援

- (1) 各種就職フェアのチラシを掲示板に貼付し学生へ周知した。 また重要なフェアについては学内メールで周知し参加誘導を図った。
- (2) 企業やその他就職先の担当者を本学に招いて個別説明会を実施した。
- (3) 合同企業説明会を実施した。42法人の参加があった。
- (4) 本学卒業生が就職している施設・園の見学会を実施した。

## 3. キャリア教育支援

キャリア教育の一環としてインターンシップ実習を支援した。具体的



には、大学コンソーシアム大阪、東大阪商工会議所、東大阪市役所、野村證券、私立幼稚園、 その他民間企業の窓口として、インターンシップ実習を支援・促進した。今年度は数名の学生 が参加した。

#### 4. 就職先の開拓

学生の就職先を拡充するために、①各種就職フェアに参加し情報収集し求人先を広げた。② 東大阪商工会議所、社会福祉協議会主催の説明会等で企業や法人と大学との打合せ会に参加し 大学・短大を紹介して求人情報・企業や法人情報の収集を行った。

#### 5. 進路指導・相談

就職ガイダンスや状況説明会、就職先紹介などを適宜行い、 学生に就職情報を提供するとともに、就職活動に関する 個別指導(履歴書等の書類作成、面接対策など)相談などの 就職支援を日常業務として行った。



#### 6. センターの利用

学生が就職活動準備を集中して 行えるように、センター内の配置を 変更し個別面談スペースや各種フェ アの案内スペースを増設した。





〈 平成 30 年度就職・進学状況 〉

	学科	就職希望	就職希望者の就職率 (%)				
	<del>- 1</del> 11	男性	女性	合計	(名)		
+	こども	94. 7	100	97. 1	0		
大学	アジアこども	100	100	100	0		
于	合 計	100	100	100	0		
伝	実践食物	66. 7	100	91.7	1		
短大	実践保育	100	95. 1	95. 2	0		
人	合 計	83. 4	97.6	93. 5	1		

#### ※教員採用試験対策講座等

#### <成果について>

- ・教員採用試験対策講座として、一昨年度から面接指導・模擬授業指導を主体として、こども 学科の教職専門教員が構想し、担当してきた。しかし、今年度からは主に専属の教員を主担当 とし、一方向的な講座という性格を廃し、学びあいを重視したゼミナール的学習(通称「教師 ゼミ」)へと切り替えた。このようにコンセプトを変えたうえで、次のような大幅な内容改善 を図った。
- ・2018 年度より、①小学校への学習支援ボランティアの参加(10 月開始)、②教育問題についての議論、③受験勉強の進捗状況の確認(自習ノートのチェック)、④面接指導、⑤模擬授業指導、⑥エントリーシート(願書)の指導、⑦近隣図書館での自主学習支援(6 時間勉強)、⑧学外での合宿(10 時間勉強と受験対策講座)というメニューを用意し、実施してきた。
- ・上記のうち、①のボランティア活動は、毎週水・木曜日の14:45~15:30 に西堤小学校において実施している。②~⑥の活動は、毎週木曜日の5・6 限に学内で行い、⑦は月に一度の金曜日、⑧は長期休暇中に1泊2日(今年度は2月8日・9日)で実施した。
- ・参加学生は、1年次が1名、2年次が2名、3年次が3名、4年次が2名であった。

- ・いわゆる公務員対策講座は、この他にも、こども学科の1年次を対象とした保育所・幼稚園 教諭向け対策講座を週に1回(90分)、教養科目専門の教員が担当しており、5~6名が参加し ている。
- ・学科の教員との連携を意識して開催した決起集会では、学生の参加率が高く、大学1・2年次の参加者も見られた。今後の学科教員との連携可能性を示す結果であったと言える。

# [7] 基盤教育研究センター

#### 1. 初年次教育について

大学1年次および短大1年次に「大学で学ぶI」「大学で学ぶI」(卒業必修科目)を開講し、4年間あるいは2年間の学修で必要な事項について教授した。

# 2. キャリア教育について

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育てることを目的として、大学 2 年次は「キャリアを考える I 」「キャリアを考える I 」、短大 2 年次は「社会人になるには I 」「社会人になるにはI 」「社会人になるにはI 」「社会人になるにはI 」「社会人になるにはI 」「中央上のでは「キャリア形成の深耕を目的として、大学 3 年次および 4 年次については「キャリア形成論 I 」「キャリア形成論 I 」「社会人の基礎 I 」「社会人の基础 I 」

#### 3. リメディアル教育について

本学学生の基礎学力向上を目的として、「ラインズドリル(愛称:ひがドリ)」(ラインズ社)を活用し、WEB教育ツールによる学生の自主学習支援を行った。その学修成果および基礎学力判定のための「基礎学力判定テスト」を年2回(7月、1月)2科目[数学(基礎)、国語]実施した。

### (成果)

- ・「ひがドリ」を活用した基礎学力向上策の運用を開始し2年目を迎えた。「ひがドリ」に 取り組んできた大学および短大1・2年次におけるリメディアル教育は、まだ端緒に就いたば かりであるが、学生の基礎学力向上に一役を担いつつある。当センターが導入する「基礎学 力判定テスト」における点数の上昇は、学生の基礎学力向上の根拠の一つである。
- ・2018年度前期終了時点(7月)と後期終了時点(1月)の「基礎学力判定テスト」の結果は、日本語は上昇傾向にあり、数学はやや下降傾向にあった。
- ・全体の得点別レベルの結果は、数学では中位層が下位層に流れ、日本語では下位層が中位 層に流れた。ただし、日本語においては、上位層の微増も見られた。
- ・基盤教育研究センターの所属教員の授業(「大学で学ぶ I ・ II 」「キャリアを考える I ・ II 」)では、学生の基礎学力向上を意識した授業を構想した。とくに「書くこと」「話すこと」「考えること」の能力の向上に取り組んだ。その結果、学生の文章への忌避感を和らげることができ、同時に自らの考え・意見を書き言葉にして表現する能力が相対的に上がってきた。
- ・「書くこと」「考えること」に重きを置いた授業としたことで、学習に対して能動的な姿勢が育まれた。その結果、授業中の私語が激減した。さらには、1年次において無遅刻無欠席の皆勤者数が例年の2倍以上であった。

・また、「ひがドリ」の導入が学生の受講態度の改善をもたらすこともわかっている。講義 の準備を整える時間やすきま時間に「ひがドリ」を取り組ませることは、学生の学修意識を 切り替える効果や集中力を維持させる効果があると予想される。

#### (課題)

- ・基礎学力向上対策に対する教員間の意識格差があり、授業において「ひがドリ」を活用する場面が、導入時の予想に反して極端に少ないことが専らの課題である。
- ・本学における本格的な基礎学力向上策の分析は、全学生、とりわけ日本人学生の日常的かつ継続的な「ひがドリ」活用があって初めて可能となる。現段階で言えるのは、「ひがドリ」および「基礎学力テスト」が基礎学力向上において一定の有意性をもつことである。
- ・この2年間の事業は、学習活動に意欲的な学生の層には一定の効果があることが実証された。今後は、自主的に学習活動を推し進められない学生(潜在的な学力を有している学生)の層に教員が精力的に働きかける必要がある。さらには、基礎学力に決定的な課題を有する学生(学習困難な学生)の層の底上げを図る方策を同時に考える必要もある。これらは高等教育の性質上、就職支援とともに行われなければならない。
- ・ただし、限られた予算と少ない教員数の環境のままでは、今後、前述の学生層の基礎学力 向上を図ることは困難である。そのような現状下でも可能なのは、少人数指導体制を敷きつ つある各学科において、学生の基礎学力データを参考にしたきめ細かい個人指導と就職支援 の連動を図ることである。就職試験で幅広く用いられている適性検査「SPI3」は、性格検査 および基礎能力検査(言語・非言語)で構成されている。そのうち、非言語は、中学生程度 の学力で説くことのできる問題内容であり、本学独自の少人数指導を徹底することは、大学 の授業の理解度を向上させ、就職活動を支援することに直結すると判断する。
- ・「ひがドリ」を導入後、実践食物学科ではモデルケースとなる取り組みが継続して行われている。まずは学科として必要な基礎学力に関連する分野の抽出を行い、学生へ優先的に取り組む分野を科目ごとに提示し、一定の点数取得を達成する期限を設ける目標志向型の学習施策を行った。その結果に基づき、学習時間不足者および点数未取得者に対して、「ひがドリ」を集中して取り組ませる補講も実施した。1年次からデータ化してきた学習実績を分析し、学習指導および就職支援等に活用した。また、学科独自の「課題」を出題する取り組みも行っている。今年度は製菓衛生師 国家試験対策用の課題を新たに出題したところ、受験者全員が合格することができた。このことから、学生の資格試験の自主学習に一定の効果があった可能性が示唆された。このことから、他学科においても、学科別で必要な課題を精査し、学生の学習・就職支援に繋げていける可能性を大いに感じられた。
- ・また、基盤教育センターにおける「基盤教育」とは、基礎学力への働きかけ(リメディアル教育)を主眼とするが、学生の学習能力の養成(初年次教育)、就職や生き方に対する意識の涵養(キャリア教育)とも関わりが深く、これら3つの教育の循環を生み出す必要もある。次年度は、この点に重点を置いて学科教員との連携を深めつつ事業展開をする。

#### 4. キャリア教育の研究

日本リメディアル教育学会・日本キャリア教育学科・初年次教育学会に入会し、学会等に参加することで本学の基礎学力向上に寄与するための研究に着手した。

# [8] 保健センター

保健室及び学生相談室の活用について、より多くの学生・教職員に周知を図るよう努めた。 また、学生の状況に応じて、協議を重ね、学生のメンタルヘルスの向上に貢献した。

保健センターでは、「保健室」と「学生相談室」を設け、「こころ」と「からだ」の両面から支援する体制をとっている。基本的な活動として、①健康診断の実施とその結果に基づく健康管理・健康増進支援、②心身の健康相談・支援、③安全衛生諸活動 などがある。 定例の教授会では、毎月利用状況の報告を行った。

#### (1) 保護者面談

例年通り保護者面談を入学の式当日に実施し、学生の心身の健康に関する相談にのった。 情報については、保護者の同意を得て管理職をはじめ当該学科に報告し、校医・教職員など と連携して入学後のより良い学生支援に繋げた。疾病、障害に関することなど様々な相談が あり、保護者面談をきっかけに、継続した学生支援につなげることが出来た。

#### (2) メンタルヘルス

学生の状況に応じて、事例研究・支援の進め方について密に協議を重ね、学生のメンタル ヘルスの向上に貢献した。

#### (3) 啓発活動

学生・教職員のより良い支援を目指すため、保健センター通信「NEWS LETTER」を2回発行し、啓発活動に努めた。心身の健康に関して、学生生活に役立つ情報を発信し全学生・全教職員に配布した。

#### (4) その他

近年、多様な学生が入学してくることを踏まえ、保健センターが利用しやすい場所となるように努めた。保健室と学生相談室の連携を密にし、協働支援すべく環境整備を図った。

また、学生生活に不安をもつ学生や、配慮の必要な学生への対応を講じ、中途退学の予防に努めた。

#### 1. 保健室

保健室では、学生・教職員の健康診断、健康相談、突発的な傷病に対する応急処置を始め、 健康診断証明書のデータ作成、学生・教職員健診のデータ管理、各種業務統計及び各種届出等 を行っている。また、学生が利用しやすい場所に設置されていることもあり、学生生活に関す る様々な窓口としての役割を担った。

#### (1) 健康診断

学生・教職員を対象として法令に基づく定期健康診断を実施した。また、健診実施に関する問題点を明確にし、健診業者との綿密な協議に努めたことにより、実施・事後措置の充実を図った。

定期健康診断後、有所見者には問診・再検査・精密検査・生活指導等を通じ、健康に対する自己管理支援を行なった。胸部疾患の早期発見には定期健康診断が重要であり、経過観察の必要な学生については、受診経過の追跡に努めた。

さらに近年、再三の再検査呼び出しに応じない学生の増加に伴い、学科長・アドバイザー・ 実習担当者と協働した結果、再検査期限内での実施率が向上し、実習準備業務の効率化に繋 げることができた。

## (2) 外傷・疾病への対応

学生・教職員の外傷、疾病に対する応急処置を実施した。本年度は、看護師・事務職員の 2人体制により勤務調整が可能となり、月曜日~金曜日9:00~17:00保健室を開室するこ とができた。

また、学生・教職員の疾病や外傷に関する健康相談を実施し、必要に応じて管理職・教職員・医療機関等との連携を図った。

#### (3) その他

健康教育の積極的取組みとして、例年通り東大阪市西保健センターと協働し学内喫煙活動を実施した。また、労働者のストレスチェック制度の施行に伴い、ストレスチェック制度に関する業務全般を調整し、学生・教職員の健康の保持・増進に取り組んだ。

さらに、安全衛生管理者を中心に労働安全衛生委員会にて協議し、教職員の労働環境確認・ 改善に努めた。

#### 2. 学生相談室

学生相談室では、学生・保護者・教職員のカウンセリング、コーディネーション、コンサル テーション、学生支援に関する相談業務に努めている。

#### (1) 学生相談

学生相談室が利用しやすい空間になることを目指し、ポスター掲示、心理テストの案内等を行い、来室を促した。

#### (2) 啓発活動

入学式・新入生へのオリエンテーション等で、学生相談室の案内・活用に向けた説明をする時間を設け、カウンセリング希望の新入生に心理的な抵抗を少なくするように働きかけ、 学生相談室へいざなう活動に取り組んだ。

#### (3) ティーアワー

昼休みに学生相談室を開放し、学生相談室の利用が広がる活動に取り組んだ。ティーアワーへの参加者は、顔見知りだけでなく、学部・学科を超えた交流ができ、初対面の学生と歓談する様子もうかがえた。

#### (4) その他

職場のメンタルヘルス対策が急務となっている社会的現状を踏まえ、担任等、教職員個人に集中しがちな学生援助の負担を、各部署と連携し分担することで軽減を図るよう努めた。

また、いじめ・暴力・不登校などの学校不適応への対策強化のため、対人関係が苦手で自 主希望する学生に対して、人間関係トレーニングプログラムを少人数ではあるが試行し、学 生支援のさらなる充実を図った。

# [9] こども研究センター

#### 1.「こども広場」(月曜日~金曜日:予約制 定員親子20組25名)

地域の親子が利用し、楽しみながら子育ての方法を学ぶ為のメニューを提供した。手作りおやつやパン作り、手作りおもちゃ等の製作、ふれあい遊び、身体計測、絵本の読み聞かせなどを各月ごとに工夫した。参加する親子間の地域連帯や、異世代の交流づくりも多くみられた。また、自主研修や授業の場として、学生の実践研究も行われた。

# (1) 手作りおやつ

月	内容	組数	こども数
4月	春キャベツのお好み焼き	22	30
5月	レンジで蒸しパン	36	54
6月	きりこ・わらびもち	29	40
9月	簡単おはぎ	23	30
10月	簡単大学いも	44	57
11月	豆乳もち	44	63
12月	炊飯器ケーキ	69	103
1月	ぜんざい	39	51
2月	いりこ大豆	53	71
3月	ジャコトースト	52	66
計		411	565



# (2) パンの日

月	内容	組数	こども数
4月	人参とほうれん草のパン	18	21
5月	手作りパンと簡単いちごジャム	29	40
9月	メロンパン	18	20
10月	カボチャのハロウィンパン	64	76
11月	秋野菜のコルネ	48	65
12月	ご飯パン	52	70
1月	人参パン	56	72
2月	ココアパン	59	81
3月	餡パンマン作り	77	103
計		421	548



# (3)制作

月	内容	組数	こども数
4月	廃材でこいのぼり作り	33	49
5月	押し花でランチョンマット	15	24
6月	染布	57	81
7月	たなばた飾りを作ろう	31	42
7月	手形&足型アート	63	89
9月	英字新聞で手作りバック	54	69
10月	秋の実りで作ってみよう	55	71
11月	パンでクリスマスリース作り	66	87
12月	ペットボトルでオーナメント作り	40	55
1月	牛乳パックのリリアン編み	47	66
2月	手型足型で雛飾り作り	49	65
3月	にじみ絵作り	70	102
計		580	800



# 2. 「親子で遊ぼう」土曜日・日曜日(月1回)

月	内容	組	こども数
4月	等身大こいのぼり作り	7	11
5月	大型積み木で遊ぼう	12	17
6月	赤ちゃん体操	7	9
7月	廃材でお舟作り	8	14
8月	あかちゃん運動会	8	12
9月	親子でロールケーキ作り	19	25
10月	飛行機飛ばし	26	38
11月	絵本フェスティバル	11	15
12月	お正月飾り門松を作ろう	12	17
1月	お正月遊びを楽しもう	10	16
2月	プラ板を作ろう	13	24
3月	参加者交流会	33	32- 58
<b>⊉</b> 1-		166	256

土・日曜日の開催により、父親や 兄弟が参加しやすく家族そろっての 参加が多かった。また、以前にこど も広場を利用された小学生の親子な ども参加された。



# 3.「こども応援ひろば」

# (1) こども応援ひろば2018パートI

学生(CS4子育て実践演習受講者、及CS1)と共催。

内容は「ワクワクドキドキまほうの一日」をテーマにして、各ブースで学生が子どもをゲームや製作で楽しませていた。

また、こども研究センタースタッフと人形劇クラブ「ブロッサム」と一緒に「やぎのがらがらドン」を公演し参加者からも好評であった。

月	田	内容	大人	こども数
7月29日	(日)	こども応援ひろばパート I	155	153





## (2) こども応援ひろば2018パートⅡ

「ピアニカの魔術師」による公演会

親子がゆっくり音楽を楽しめる吹奏楽等の演奏会を数年開催していたが、本年度はピアニカによる公演会を開催した。

多彩な奏法とレパートリーの多さに大人も子ども引 き込まれていた。

月	日	内容	大人	こども数
2月9日	(土)	こども応援ひろばパートⅡ	130	110



# 4. 平成30年度 こども研究センターこども広場利用者数一覧表

月次	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学生	こども数	参加組数	親数	開催 日数	1日平均 こども
4月	24	70	55	46	22	14	4	5	240	175	175	17	14
5月	22	116	83	44	18	12	1	0	296	225	228	22	13
6月	39	147	119	30	21	12	1	3	372	282	288	22	17
7月	45	142	98	79	46	27	9	3	449	302	305	19	23
8月	54	77	94	71	72	41	10	25	444	278	280	19	23
9月	12	61	83	47	11	13	1	1	229	176	176	17	13
10月	42	125	101	81	19	32	3	12	415	317	320	22	19
11月	47	99	107	90	19	28	1	1	392	293	295	21	19
12月	26	72	88	55	34	30	2	6	313	221	222	17	18
1月	33	58	93	66	29	21	3	0	303	221	224	18	17
2月	52	81	112	82	22	20	2	4	375	279	280	19	20
3月	36	90	128	83	68	31	9	17	462	322	322	16	29
計	432	1, 138	1, 161	774	381	281	46	77	4, 290	3,091	3, 115	229	19

# [10] 異文化交流室

# 1. チューター制度

本学に在籍する留学生(新入生)が勉学及び日常生活においてより良い環境を創出するため、また留学生と日本人学生の相互理解・交流を促進するため、全留学生を対象に、毎週、異文化研究交流センターにて日本人学生と留学生を対象とした交流イベントを実施した。日本人チューターに登録した学生は、そのイベントで教職員とのミーティングを経て交流イベントとして、新入生歓迎会、お月見企画、ハロウィンパーティ、京都観光ハイキング、ぜんざいパーティを実施した。チューターと教職員による「チューターミーティング」を毎月1回、開催し、日本人チューター学生の企画運営能力を養成することに加え、交流イベント活動により留学生の学習意欲の向上や生活不安の解消に努めた。

#### 2. 留学生のための意見交換会

留学生と日本人学生の相互理解を深める措置の一環として、また留学生が本学に対する意見を知り、それを今後の留学生支援活動に反映すると同時に、関連業務を改善し、留学生の受入れ拡大に資するため、年2回留学生、チューター及び関係教員対象の意見交換会を行った。

#### 3. 海外提携大学との交流促進

毎年11月に行われる「国際こども学研修」及び「アジアこども学研修」等を通じて、フィリピンセブ医科大学付属ELSへ海外研修に行く学生に対し、学生の視野を広げるためのイベント開催を含め、事前学習会を開催した。

#### 4. 留学生の学業及び生活への支援

留学生の学業及び生活を支援するために、下記業務を行った。

- (1) 在留資格更新のための申請書類作成
- (2) 日本学生支援機構の学習奨励費(奨学金)をはじめ、各種留学生対象の奨学金の新規開拓、募集及び申請に関する事務の処理
- (3) 学業や日常生活における悩みやトラブルの個人相談
- (4) 留学生の日本語能力検定受験指導

## 5. 留学先紹介と支援

学生の海外インターンシップや語学留学などの希望を受け、海外インターンシップ或いは留 学先を紹介・斡旋し、積極的に支援した。

## 6. 各種語学関連のスピーチコンテストの支援

留学生による日本語弁論大会、日本人学生による外国語スピーチコンテストを主催し、本学学生の参加を積極的に指導・支援した。本年度は、日本人学生4名、留学生6名の参加に加え、HONK(東大阪日本語教室)から1名の参加があった。

### 7. 交流スペースの管理・運営

留学生や日本人学生がより快適に利用できるよう、湯茶コーナーを設け、各種情報を提供し、 定期購読の海外新聞雑誌、「日本・日本人・日本語」をキーワードとする邦文書籍及びパソコン 等も備え、異文化研究交流室内の学生活動スペースを管理・運営した。

### 8. 海外 NGO • NPO 就業支援

海外青年協力隊、日本語サーポーターズ等の海外ボランティア活動の情報提供を行い、希望 者に就業支援情報の提供を行った。

# [11] 産官学地域連携室

6月開催された東大阪市大学連絡協議会及び東大阪商工会議所主催産官学交流事務局会議で 提案された内容に基づいて、主として東大阪市との連携イベントを実施しました。

#### 1.「ひがしおおさか体感まち博」

10月13日(土)から11月25日(日)の期間に東大阪市の企業・店舗等が「ひがしおおさか体感まち博」として71のプログラムを実施しましたが、そのうち2つプログラムを担当しました。

(1)「自宅でカレーパン?できるんです!」

日時:10月13日(土)13:00~15:00 場所:8号館1階調理室

指導:源 教授(産官学地域連携室長) 参加者数:11名

本学学生が卒業研究で作成した「2019 花園出場7か国風カレーパン\*」作りを体験できるプログラムです。(\*2019年に花園ラグビー場で開催されるラグビーワールドカップに出場するイタリア、ナミビア、アルゼンチン、トンガ、ジョージア、フィジー、アメリカの7か国風のカレーパン)

(2)「近未来の食材!?注目の「昆虫食」を知ろう

日時:11月23日(金・祝) 10:30~12:00 場所:8号館1階調理室(予定)

指導:松井 准教授(実践食物学科長) 参加者数:23名

最近注目を集めている新時代の栄養源としても期待されている食用昆虫について知り、試 食をする講座です。

# 2.「ゆるキャラグランプリ 2018 in 花園~ラグビーのまち東大阪~」

学生の提案した「2019 花園出場 7 か国風カレーパン」レシピをもとに「東大阪カレーパン会」の会員店舗が、11月17日(土)、18日(日)に開催された「ゆるキャラグランプリ 2018 in 花園~ラグビーのまち東大阪~」の東大阪 PR ブースにて、7種類のカレーパンを販売しました。









#### 3. 東大阪市連携6大学公開講座

2019年2月3日(日)から8日(金)に開催される東大阪市連携6大学公開講座の中で、介護福祉学科助教 重松義成先生が【「認知症を予防するために」―認知症予防プログラム「コグニサイズ」―】と題して、7日(木)に公開講座を行う予定です。

# [12] IR研究プロジェクト

各部署が持つデータの有効活用と共有化及び本学の求める学生像の視覚化を目指していく 予定でしたが、サーバーの更新が不十分であったため、情報共有を進めるには至りませんでした。

また、本年度から授業評価アンケートを担当することとなり、前後期の2回実施しましたが、 学生の回答率が低く充分な評価内容が得られませんでした。

# [13] FD·SD研修

平成30年度においてFD・SD委員会は以下の2事業を実施した。

# 1. 第1回FD · SD研修会

テーマ:「学園国際交流事業」

開催日時:2018年6月6日(水)16:30~17:30 場所:851教室

レクチャー 森内 徹先生

進行:李 相済 受付:事務方 周知:全教職員へ

出席: 教職員 42 名 事務職員: 22 名 計 64 名

アンケート実施

本校における国際交流事業の歩みが再確認され、留学生の課題等を全教職員が共有することの一助となった。また、今後の国際交流センターのあり方や協働の方向性が示された。

次年度も留学生の教育(授業・生活指導・出席管理等)に関する研修の一層の必要性が確認された。

# 2. 第2回FD·SD研修会

テーマ:「科研費申請について-外部資金導入の促進をめざして-」

開催日時: 2018年12月6日(木) 15:00~16:15 場所: 851 教室

レクチャー一人目 渡邉 由之先生

レクチャー二人目 西木貴美子先生

レクチャー三人目 石鍋 浩 先生

進行:李 相済 受付:事務方 周知:全教職員へ

出席: 教職員 37 名 事務職員: 5 名 計 42 名

質疑応答・アンケート実施

科研費を獲得された教員によって、自身の申請にかかわる取り組み・姿勢・心構えなどが教示され、参考になったことがアンケート結果から伺えた。ただ、今後同様の研修を企画するにあたっては、申請時期を鑑みて、5~6月ごろが適当であろうと考えられた。

# [14] 公開講座

東大阪大学短期大学部

実践食物学科 製菓衛生師コース 岡本貴司

渋皮つき栗の甘露煮を使ってモンブランを作りましょう。

実践食物学科 栄養士コース 松井欣也

「災害時における食の防災予備知識」

介護福祉学科 川根徳雄

目は口ほどに物を言い。ちょっと覗いてみませんか。 ノンバーバルコミュニケーション(非音声言語)での会話

実践保育学科 西木貴美子·池澤由香里

子ども虐待防止「オレンジリボン運動」について知ろう!

東大阪大学

アジアこども学科 石川高行 自由に使える地図 OpenStreetMap

こども学科 丹山三恵子(マリンバ)

阿久津啓・太田寛子・尾崎克典・北野久美子(ピアノ)

「音楽で世界の旅Ⅲ」

# -マリンバとピアノコンサート-

こども学科 矢島彰 プログラミング体験 ~新たなものづくり~

○ 渋皮つき栗の甘露煮を使ってモンブランを作りましょう。

平成30年 10月13日(土) 13:00~15:00 30名受講(満席)





○ 「災害時における食の防災予備知識」

平成30年10月27日(土)10:30~12:00 16名受講





○ 自由に使える地図 Open Street Map

平成30年11月17日(土)10:30~12:00 10名受講





○ 子ども虐待防止「オレンジリボン運動」について知ろう!平成30年11月17日(土)13:00~14:30 5名受講





○ 音楽で世界の旅Ⅲ」-マリンバとピアノコンサート-平成30年 12月1日(土) 10:40~11:40 82名受講





○ プログラミング体験 ~新たなものづくり~

平成30年 12月1日(土) 13:00~14:30 23名受講(満席)





各学科へ公開講座を依頼。本学の特色を生かした大学・短期大学部各分野での講座を決定し、 実施いたしました。

地域の方々や学生等にホームページ・ポスター・チラシ・市政だよりによって案内をし、FAX とメールによって受講希望者は申し込み、本学にて受付をいたします。全講座参加費無料。